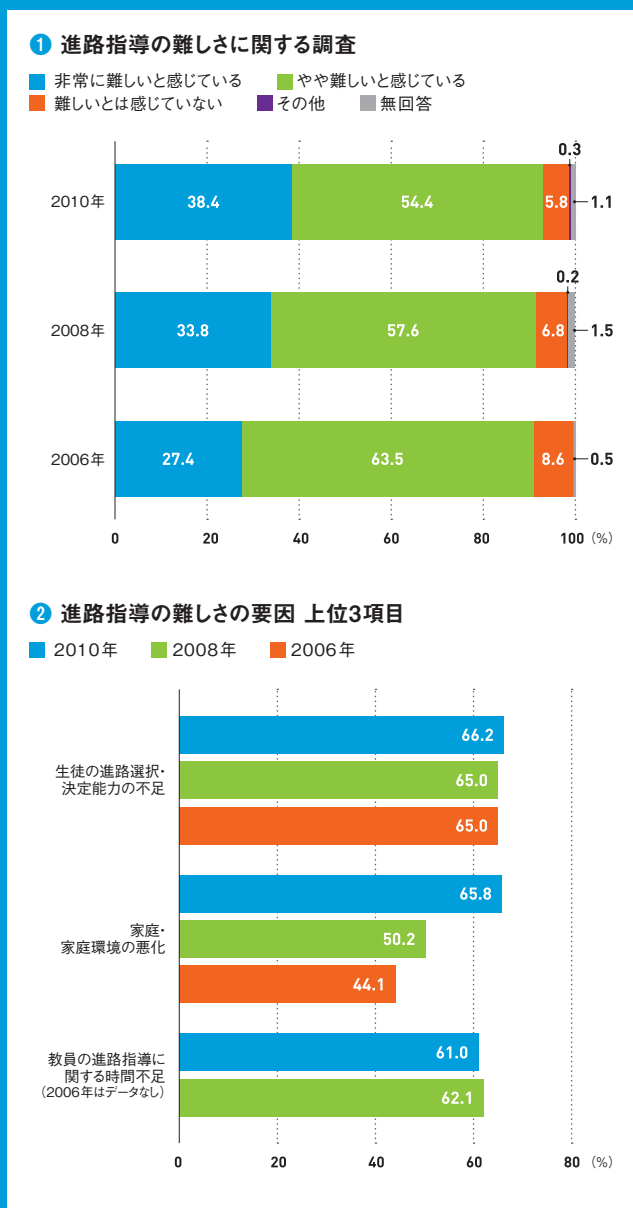


校内連携のための体制づくり

全国の進路指導主事への調査では、進路指導を難しいと感じている割合は9割以上。そして、その中の6割以上が「時間不足」を難しさの要因のひとつに挙げています。忙しい進路指導部の先生方の役に立つ情報を少しでも提供できれば、という思いから、今年度は負担軽減のヒントになりそうな事例を集めてご紹介します。

取材・文／永井ミカ

図1 進路指導・キャリア教育に関する調査



弊社「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」より
(調査対象：全国の全日制高校の進路指導主事)

校内の風通しのよさが先生方の疲弊感を和らげる

左の図①は、全国の進路指導主事の先生方に進路指導の難しさについて聞いた結果。「非常に難しいと感じている」割合がここ数年増加しており、「やや難しいと感じている」割合と合わせると、9割以上が「難しい」と感じていることになる。

図②はその「難しさ」の要因。1位が「生徒の進路選択・決定能力の不足」、2位が「家庭・家庭環境の悪化」、そして3位が「教員の進路指導に関する時間不足」だ。3位の「時間不足」については、学力向

上のための学習時間や部活動の時間の確保のためしわ寄せがきたり、そもそも進路指導の業務量に対して人員が不足しており、その結果、余裕がなくて計画したり研究したり組織化することが難しいといった声が寄せられた。例えばセンター試験ひとつとっても応募書類の下書きチェックに始まり、高校によっては引率はもちろん宿泊施設や食事の手配まで、仕事内容は多岐にわたる。2011年度上半期、「キャリアアゲインダンスネット」のクリック数第1位は『教育トピック／教育ジャーナリストに聞く 教えて！「日本の教師の忙しさ」』。先生方が最も実感する悩みのひとつは

「多忙」であることは間違いない。そこで、今年度の「進路指導実践事例」では、進路指導の業務を円滑に行うための体制づくりや校内外の連携事例について紹介していく。第1回目は「校内連携のための体制づくり」。「連携がとれない」「どう工夫をしてよいのかわからない」という声がほとんどのなか、先生方の業務を効率的にすすめる、疲弊感を和らげている事例をご紹介します。進路の分掌以外の先生も当事者として巻き込み、時には思いきって仕事をまかせること、また部内・校内の風通しをよくすることなどが、負担軽減のヒントになりそう。

各学年2人が進路指導部を兼任することで 進路指導部と学年団の連携をスムーズに

— 滋賀・県立 守山高校 —



2学年主任(前進路指導部長)
堀 浩司先生

進路指導部長
杉原真也先生

School Data

普通科 / 1963年創立
生徒数 / 711人 (男子332人、女子379人)
進路状況 (2011年度実績) / 大学87.4%、短大1.3%、
専門学校1.7%、就職0%、その他9.6%
滋賀県守山市守山3-12-34
TEL 077-582-2289
URL <http://www.moriyama-h.shiga-ec.ed.jp>

1人は総合的な学習の時間
1人は模試などの担当に

03年度より併設型中高一貫校として生まれ変わった守山高校。2年生のフィールドワークを核に総合的な学習の時間(以下、総学)「人間探求学」を行うなど、仕掛ける進路指導を展開している。

進学校としての通常の業務に加え、総学や進路LHRなども担当する進路指導部。所属12人の内訳は6人の専任と各学年2人ずつの進路係だ。学年の進路係を仮にA先生・B先生とすると同校では、左の表のように役割分担をしている。A先生は同校の進路指導の要となる総学について進路指導部と協調して学年を引っ張っていき、B先生は模試などにかかわる業務を緻密にこなせる人が理想だ。

学年の進路係の役割分担

A先生	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な学習の時間の運営 (学年主導分野あり)
B先生	<ul style="list-style-type: none"> ● 進路LHR・進路講話等の企画・運営補助・調整・資料準備補助 ● 模試にかかわる諸業務 ● 接客補助、補習計画立案など (3年のみ)

進路指導部発行「今週の総学の連絡をします」

Trust! Foster! Support! 人間探求学

高校2年生 総合的な学習の時間 人間探求学
2011.9.22.

担当の先生方 9/27総学について連絡をします

※後の予定です

9月27日(火) ⇒ 11月FW先を採る。手帳を書く、アホ取り ワークシート9/14提出

10月4日(水) ⇒ 2学期中間考査

10月11日(水) ⇒ 修教科の授業

10月18日(火) ⇒ 11月FWの準備をします。

10月25日(水) ⇒ 修教科の授業

11月1日(火) ⇒ 11月FWの準備をします。この日までにFW先を確定し、報告すること。

11月8日(火) ⇒ 11月FWの準備・確認をします。

11月15日(火) ⇒ 2～6限 11月フィールドワークの準備

2月上旬 ⇒ 1人7分間の発表会

9月27日(火)

日 時: 9月27日(火) 4限 2-3(堀川・栗田) 2-6(清水杏・松澤)
5限 2-1(清水英・若井) 2-5(入江・野村)
6限 2-2(松居・奥野) 2-4(山本・北川)

①担任の先生方は、次の連絡を前日のSHRにて生徒に連絡してください。
・FWの打ち合わせをしっかり覚えておくこと。期限7月22日9:15まで提出です。手帳を書くのであれば、できるかぎり2学期中間考査までにFW先へ手帳を送るべきです。
・手帳を書くor直接電話でアホを取ろうと考えている人は、事前に担当の先生へ報告＆チェックしてもらうこと。自分だけで勝手にやったらアホだよ。手帳が置いたら、担当の先生へ見せに行きなさい。
・せっかくの機会を自分の為のものにして、チャレンジだ!
②当日朝のSHRにて、ドリカムファイルと筆記用具を持って、チャイムまでに待合室へ集合するようにお伝えください。
③担任の先生は、出席をお願いします。
④できていれば、9/22大学模範購買の感想を提出します。
⑤A 本日、ワークシート9/13の提出です。ワークシートはチェックしてOKなら進路係で提出してください。フィールドワーク先は、担当の先生と充分に相談して行先を決めること。これからテストをばさみ、次回は10月18日まで総学はありませんで、手帳を出したり、アホの電話をしつたりを10月18日までに各自でしておくこと。
B その後、CA1やCAL1に分かれて11月フィールドワークの準備をさせます。(CA1やCAL1、進路資料室、図書室へ移動可、教室は不可)

総学について、進路指導部が毎週行うことをプリントにし、学年会議の前までに関係する先生の手帳の上に配布。「せっかくの機会を自分のためのものにして! チャレンジだ!」など、進路指導部から伝えたいメッセージも盛り込んだ内容だ

毎週の総学については、進路指導部長と進路指導部専任の総学係、そしてA先生が打ち合わせを行い、A先生が学年会議でその内容を伝え、各担任に具体的な指示を出す。必要に応じて学年会議に、人間探求学の管制塔である進路指導部専任の総学係を感じやすい総学について、「進路指導部から言われて受動的にやるのではなく、学年団の一員であるA先生のリードのもと能動的に展開することで、担任の先生方のモチベーションも上がり連携もとりやすくなります」というのは、進路指導部長の杉原真也先生。A先生は教員の負担感を和らげる緩衝材にもなるのだ。

進路指導部長は所要所の重要ポイントだけを伝える

毎週の総学については、進路指導部長と進路指導部専任の総学係、そしてA先生が打ち合わせを行い、A先生が学年会議でその内容を伝え、各担任に具体的な指示を出す。必要に応じて学年会議に、人間探求学の管制塔である進路指導部専任の総学係を感じやすい総学について、「進路指導部から言われて受動的にやるのではなく、学年団の一員であるA先生のリードのもと能動的に展開することで、担任の先生方のモチベーションも上がり連携もとりやすくなります」というのは、進路指導部長の杉原真也先生。A先生は教員の負担感を和らげる緩衝材にもなるのだ。

このシステムで進路と学年のいい関係が築けている同校。「次は進路指導部と教科会のよりよい連携のあり方を探っていきたい(杉原先生)そっこだ。」

も一方で部長は、所要所で学年会議に出席したり、生徒の前で話をします。こうすることでメリハリがついて、重要なポイントも伝えやすくなるのです。

このシステムで進路と学年のいい関係が築けている同校。「次は進路指導部と教科会のよりよい連携のあり方を探っていきたい(杉原先生)そっこだ。」

養護教諭やキャリアカウンセラーと連携し 新しいキャリア教育を模索

— 北海道・市立 札幌大通高校 —



進路指導部長
平野 淳也先生

School Data

普通科(三部制・単位制) / 2008年創立
 生徒数 / 1040人(男子416人、女子624人)
 進路状況(2011年度実績) / 大学18%、短大5%、
 専門学校29%、就職18%、その他30%
 北海道札幌市中央区北2条西11丁目
 TEL 011-251-0229
 URL <http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp>(公式サイト)
<http://odori-cc.net/>(学校広報サイト)

養護教諭と担任の連携から 進路の問題点も探り出す

三部制・単位制の新しい学校として08年度に開校した札幌大通高校。さまざまな面で生徒を支援する高校として、多様な生徒を受け入れている。

同校は、同じく三部制の東京都立椏ヶ丘高校が行うコーピンググリレーションを、キャリア教育の一部として行っている。これはストレスに対処しながら人間関係スキルを養うプログラム。椏ヶ丘高校に視察に行き協力を仰いで、規模を縮小して実施。もともとは、椏ヶ丘高校の事例を知った養護教諭が提案して、従来実施していたエンカウンター(の代わりに導入することになったのだ。

「養護教諭と担任や進路指導部は連携を密にするべき」というのは、進路指導部長の平野淳也先生。同校では、この例からもわかるように養護教諭の提案に耳を傾ける先生が多い。さまざまな問題を抱える生徒を担当や進路だけでは対処できないケースも多く、養護教諭の役割の重要性は増すばかりだそう。昨年度からは学年団を3つにわけたチームと養護教諭の年2回の会議が行われることになった。そこで、問題を抱える生徒をピックアップし、その情報は進路指導部にも伝えられる。進路指導を行っているだけでは何の問題も見られない生徒の、家庭内の問題点の早期発見、などという効果もこれまでにあった。

新しくできた「保健支援部」が 校内連携・外部連携を手助け

同校は外部支援団体とも連携している。キャリアカウンセラーやスクールカウンセラー、養護教諭、担任、進路などがうまく連携すれば、生徒をよりよく支援できる一方、多くの人がかかわることで校内の体制は複雑になりかねない。そこで、昨年

から現場の教員の要望に応える形で「保健支援部」という分掌が誕生。生徒支援にかかわる人材を取りまとめるコーディネーター的な役割を果たす。「どのような学校でも、生徒を複数の目で多角的に見ていくことは大切だと思います。進路指導部としても保健支援部と日常的に連携し、生徒が社会とつながっていくように支援したいと思います」(平野先生)。

キャリアカウンセラーなどの校内連携体制

	連携概要	期待される効果
生徒に対する個別キャリアカウンセリング	リスクの高い生徒を教員がスケジュールを組み、優先してキャリアカウンセラー(以下CC)の面談を実施	・生徒が自己理解を深める機会 ・生徒とCCの信頼関係が構築されることにより、中退や卒業後の継続した相談先を確保
進路相談スペースでのフリー相談	予約制キャリアカウンセリングの空き時間に、求人アドバイスなど生徒の相談に対応	・いつでも気軽に相談できる体制の確保 ・学内における生徒の健全なためり場づくり
長期欠席者への家庭訪問	担任等とCCがペアで、長期欠席生徒の家庭を訪問する	・家族と学校、CCの3者による支援体制の構築
キャリア教育に関する授業の連携	職業人の講話授業などにおいて、CCが講師役となるほか、外部講師のコーディネートを行う	・職業情報を得るほか、さまざまな働き方や生き方を聞く
スポーツ交流会の実施(08年・09年度のみ)	生徒と勤労青年とが本校体育館にてスポーツを通じて交流する(CCが勤労青年の参加を調整)	・クラブ活動感覚で学校生活への定着を深める(中退の防止) ・働いているお兄さん・お姉さんとの交流を通じた職業意識の啓発
個人情報の共有	本校と外部支援団体との間に覚書を交わし、生徒の個人情報の共有に関するルールを明文化した覚書締結	・中退や卒業後の継続した支援体制の構築 ・個人情報保護違反等のトラブルの防止

総合的な学習の時間は 分掌とは別の委員会で運営

鹿児島県・公立高校

総合的な学習の時間でプロジェクトを立ち上げたとき、教務部や進路指導部が担当するのではなく新たに委員会を立ち上げた。さらに、教員の負担の軽減を考え係制を導入。各学年でなるべく若い先生や勤務年数の少ない先生、企画に関心を持っている先生に係をお願いし、小論文係、ディベート係などの各係が責任を持って実施案を作成し、学年会で修正するというスタイルをとった。

およそ10年前に導入した仕組みだが、その後も、学年ごとにアレンジはあるものの形を大きく変えることなく運営されているそうだ。

教務部がインターンシップを企画 進路指導部と連携して運営

山形県・公立高校

進路に関する行事は進路指導部が行っているが、その中でもメインとなるインターンシップの企画は教務部で担当している。ただし、生徒の進路先として進路指導部が日ごろ接している事業所などがインターンシップ先となるので、教務部と進路指導部が常に協力しあう必要がある。そのことで、結果的に連携がとれるシステムとなった。

一方、分掌をまたぐと指示を出しにくい・受けにくいというデメリットを感じる教員もあり、その解消が今後の課題となっている。

壁のない職員室で 面談などもオープンに

北海道・公立高校

職員室と廊下の境に壁がない。教員が業務をしているすぐそばを、生徒が常に歩いているようなレイアウトとなっている。教員はL字型のデスクに座り、一方は個々の作業スペース、もう一方は生徒や保護者との面談スペースとしても使われる。

ひとり一台のパソコンがあり、面談などはパソコンの画面を見ながら行えるので効率がいい。また、面談中にほかの先生に相談するなどのフレキシブルな対応ができる。研究室や準備室がないので教員はすべて職員室に集まることになり、情報交換もスムーズだ。

進路の各業務の担当者を 正・副の2～3人体制にする

静岡県・公立高校

進路課の業務の役割分担を決める際、ほとんどの仕事で正・副担当の2人体制にしている（大学模擬授業や勉強会など）の大きな行事の場合は、正1、副2の3人体制にすることもある。

これら2～3人の担当者はなるべく学年をまたぐ形になるように割り当て一緒に仕事をしてもらうことで、学年と学年の間の風通しもよくなるし情報交換が密になる。また、進路課経験のない教員にも正を担当させ、その際必ず進路課経験がある教員を副でつける。

連携・時短・効率化のためにやっているひと工夫

- 配布物には目を引きやすいように簡単な案内をつける（茨城県・公立）
- 郵便物の開封・整理など単純な業務を一緒にやりながら伝達・引き継ぎを行う（茨城県・公立）
- 情報共有のために進路指導部員も職員室に常駐（進路指導室には常駐しない）（岐阜県・公立）
- 校内サーバに業務伝達のためのマニュアルを用意し、毎年手直し・バージョンアップしていく（静岡県・公立）
- 進路行事の写真はすぐに校内サーバにアップ。管理職が報告書を作成する際の時短につなげている（山形県・公立）
- 進路指導部に学科主任が複数人兼務している（福岡県・公立）
- 3年学年団と進路指導部が一体化（富山県・公立）
- 図書室を訪れる生徒に対し、司書教諭が独自に進路に関する情報提供を行っている（愛知県・公立）
- 進路指導部員はいつでも校務運営委員会に出席提案ができることになっている（福岡県・公立）
- 予備校等の研修に参加し、学年団、教科に情報を提供（大阪府・公立）

- 若手教員にも仕事をまかせ覚えてもらう（大阪府・公立）
- 学年主体で進路行事を行ってもらい、進路指導部の負担を軽減している（広島県・公立）
- 図書室、保健室にも進路資料を配布し、司書や養護の先生と協力体制を敷く（大阪府・公立）
- 進路と学年団で勉強会を開催（愛知県・公立）
- 高大連携は地域連携とあわせて渉外部に担当してもらっている（神奈川県・公立）
- 教員1人1台のパソコンを活用。進路状況などはメール配信する（静岡県・公立）
- 進路指導の流れを3年の担任から、1・2年生の担任に話してもらう機会を設ける（静岡県・公立）
- キャリア教育を担当する委員会に、進路指導部と教務部を兼任する人材を置く（岩手県・公立）
- 進学校勤務が初めての先生のために面談をオープンに。生徒に模試のグラフを見せながら行う面談などを実際に見学してもらう（滋賀県・公立）